

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500198		
法人名	株式会社 ほんじょう会		
事業所名	みどりの郷 ほんじょう		
所在地	大分県佐伯市本匠大字笠掛1589番地1		
自己評価作成日	平成28年2月20日	評価結果市町村受理日	平成28年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500198-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府番館 1F
訪問調査日	平成28年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『風光明媚な本匠の地に、ようこそ！』とお迎えすることから私たちと一緒に暮らしを始めています。ホーム周辺には桜の木を植樹してあり、満開の時期には毎年、居室からも戸外に出て入居者の目を楽ませてくれます。ホーム菜園では、今年も野菜作りが始まっています。今年は既にエンドウ豆、玉葱、ジャガイモ、ほうれん草、サラダ菜を作付しており、早くも新玉葱が食卓に上っています。四季折々の野菜類の献立はグループホームほんじょうの自慢の一つです。昨年10月、入居者のご家族を招いての楽しい大運動会を開催しました。風船割りゲーム、徒競走、綱引きなどなど、パン食い競争では入居者家族共々真剣に競技に臨んでいる様子に笑いが起こりました。食事は参加者全員で楽しく召し上がって頂きました。このようなこまもグループホームほんじょうの特色でもあります。このような中、職員は「共同生活での自分らしい自由な暮らし方とは何か」常に思考し、ひとり一人に温かい心で接するよう日々の介護実践に取り組んでいます。隣接するサ高住と共に『住み慣れた我が家で生き生きと、そしていつまでも！』を合言葉に、「地域にあるごく自然な佇まい」を目指したホームづくりを目指して、「おかえりなさい！」が似合うホームが私たちの目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中で、のんびりと居心地よく過ごせるよう、様々な取り組み・工夫が行われています。施設内に菜園があり、利用者と一緒に野菜等の収穫がおこなえるなど、楽しみ・元気が湧いてくる施設と感じ受けます。気分に合わせて近所への散歩、季節ごとの外出支援に取り組まれ、利用者が安心して過ごせる施設となっています。地域の方とのつながりを保つため、どなたでも参加できる「本匠カフェ」の取り組みを始められ、地域に欠かせない施設の役割も担っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域のために、地域とともに」との事業所共通理念の下でホーム運営に取り組んでいる。少しずつスタッフに浸透してきているがまだまだ行届かない。このためのカンファレンスも行っている。	毎日の引き継ぎや月一回のカンファレンス等で理念の共有を図っており、家族やスタッフ等に施設の方針等が浸透する努力をなされています。	法人の理念を基本に、事業主・管理者・職員全員、家族等の意見を反映した、事業所独自の理念・指針等を作成される事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接地に小中学校・幼稚園・保育所があり、双方の行事やイベントに参加し交流を図っている。中学生では福祉体験学習の受け入れをするなどの相互交流を行っている。	地域の人々が来所したり、地域へのイベント・行事に参加等、双方向による交流や福祉体験学習など地域の学生の受け入れ、そしてボランティア等と積極的な関わりを持つ環境作りがなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在の実践状況は充分ではない。1回/2月、地域カフェを開催し交流を図ることになっている、一方法人全体の取組みとして夏祭りやイベントでの広報や参加を通じての交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の意見を伺い、それをサービス向上に活かせるよう努めている。ホームでの生活ぶりを映像に収め、共有している。また、ホームの広報誌を活用した実情報告や地域への広報を積極的に行っている。	推進会議を12名の体制で取り組まれ、地域と施設の情報交換を積極的に取り組み、自己評価・外部評価、さらに改善点等の意見を報告し、運営推進会議から意見を頂くなど活発に取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居相談を受けたり施設見学に来ていただき、常に情報交換を行っている。特に包括支援センターには運営推進会議に出席を要請し、情報共有を図ることで入居への対応において有効に作用している。	利用者の、状態の変化・わだかまり等新たな課題が発生した時は、相談・共有を図っており、地域包括支援センターの職員も気軽に立ち寄られ、利用者の暮らしぶり等情報交換がなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵は極力使用しないように努めている。センサーは活用しているが、見守りを重視し玄関の施錠はしていない。	身体拘束防止委員会を設置、毎月一回研修会を実施、拘束防止についての話し合いを行い、安否確認や寄り添うケアなど、職員・地域とも連携を取りながら支援に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスを通じてスタッフ間で意識の共有を図っている。目標としてスピーチロックスの排除を掲げ、入居者の平穏を心掛け支援している。虐待防止に係る研修等に積極的に参加し復命研修等による共有を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで学習の機会を持てていないのが現状である。今後、行政機関主催研修会等に参加するなどしてスタッフのレベルアップを図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居又は入居契約の際には十分に説明を行い、承諾を得、その内容に対する理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で入居家族や運営推進委員の意見や要望などを伺っている。写真や映像で暮らしに対する理解を得て、意見を反映できるよう努めている。家族には行事等に参加していただき、日常の様子がわかる機会を設けている。	CDを活用し、利用者の暮らしぶりや支援状況を家族から見て頂き、意見を聴く機会を設定するなど、利用者・家族の方が気軽に要望が伝えられる環境作りがなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも月に一度のカンファレンスの機会を設定し、その中で意見交換し、改善していく箇所を見直し実践に努めている。	カンファレンス、ミーティングなど管理者・介護職員との会議により、担当のホームメイトや職員からの意見が直ちに支援に反映出来る体制が構築され、その取り組みがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	固定給への変更や、資格取得による資格手当の付与、業績など総合的な評価に応じた昇給、介護職員処遇改善加算Ⅰを算定、所得の向上を図ることで就業意欲を高め、それぞれの目標達成をサポートしていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況は実際に現場を見る、又は管理者より報告を受け把握に努めている。研修があった場合、朝礼や張り紙などを通じて告知を行い、参加を促している。た学習会や研修会(虐待防止、拘束廃止等)も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	抱括ケア会議や各施設等の相談員が集まって行う事例検討会など、同業者との交流の場にも参加し、他の事業所との連携を図っている。またその場で知れた知識や研修会などは朝礼などを通じて職場への周知を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談やモデルケアプラン、基本情報を確認し本人の要望や希望を伺うなどして、関係づくりに努めている。本人の希望や要望がかなえられるよう支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談するなどし、また管理者やケアマネジャーを通じて情報を受けことにより内容や状況を把握し適切な支援ができるように心掛けている。特に医療面での不安解消に向け専任看護師の配置を実行した。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内容を管理者やケアマネジャーを通じて受け送送りを行うなどして、そのサービス内容からもう一つ上のサービスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に尊敬と感謝の念を持ち、人生の大先輩としての教えやアドバイスを受けるなど、相互的な関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに入居者の日常の様子を伝えるなどして、家族の方との良好な関係が築けるよう努めている。特に医療支援については受診状況報告書を提供し安心できる状況を作りように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある友人の面会や家族との外出、外泊は支援できているが、ホームからのアプローチはまだ弱い。入居者も限定しているのが実情である。	知人・友人等へ連絡をとってほしい要望があれば取り次ぎを行い、馴染みの場所や自宅を見に行きたい意向があれば、外出支援できる体制が構築されています。	外出など、申し出にくい状況が生じている様子を感じれば、利用者・家族等と積極的に意見交換し、対応する事を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないようにスタッフが声掛けし、レクリエーションを一緒にするなどコミュニケーションを図るようにしているが、ソファに座ったままの状況が見られることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同系グループ施設への転居の場合は継続した支援を行うための介護で共有を図るなどし、例えば入院退去された方などには折に触れ面会するなど、可能な限り関係が継続する環境づくりに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話や表情の変化などにより状況を把握するようにし、本人の希望に沿えるよう努めている。また意思疎通が困難な場合は家族の意見を求めている。	利用者に寄り添い、したいことや生活の方法等把握できるように対応され、日々の行動や表情から、健康状況等を把握し支援に取り組みがなされています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や基本情報を土台として、より入居者に適した生活環境や支援サービスに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や支援記録、送り等で日々の状況を共有周知し、入居者の現状を把握することに努めている。また問題解決のためのケース会議を不定期ではあるが開催し、状況把握に努めるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者の下、計画作成担当者が中心となり家族や職員と話し合い介護計画を作成している。チームケアとの立場から複数人によるモニタリングとカンファレンスにて問題の解決に取り組んでいる。	利用者の状況変化や更新等、見直し・モニタリングが細かく行われています。利用者本人が表現しにくい時は、家族・介護職員の意見を聞きながら、常に本人本位で介護計画が作成されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員担当ケア制を試験的導入し、複数による日常の記録やカンファレンスなどで情報を共有し、実践に活かすよう努めている。実践効果が出ていると実感している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設見学や体験入居などで対応している。入居者の要望には対応するように努力しているが、柔軟に対応しきれていない場面も否めない。隣接するサ高住との交流促進による効果的支援に努めていく。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する小中学校の児童生徒との交流ができ、入居者は楽しい時間を共有した。定期的な子供たちの訪問は入居者の喜びとなっているようだ。今後、地域交流施設等を活用した取り組みをさらに進めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を重視し、かかりつけ医の変更はしないようにしている。また協力医療機関とも密接に連携し、定期受診を行うなど日常の健康管理に努めている。訪問診療も行っている。	2週間に一度ホームドクターによる往診が行われ、かかりつけ医は利用者・家族の希望となっており、本人の体調の変化が見られた時は、医療機関と迅速な対応が出来る体制が構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は現在、専任看護師3名態勢を敷き入居者の日常の健康状況等を把握するとともに、24時間連絡を取れる体制を敷いている。急変時等即応する指揮命令系統も構築できつつある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的な面会を行うなど入院時の現状把握、回復状況の確認に努めている。また退院時は入院中の情報を聞き即応できるように努めている。また医師、看護師からの情報を退院後の支援に役立てるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者或いは家族の希望に沿えるように、予め書面等を作成し説明している。現在、終末期にある入居はいないが、看取りについての職員の意識づけを行っている。また、家族の終末期に対する考えや意思を伺う機会を持つことにしている。	入所時に施設で出来る事を説明し、医師・家族と協議しながら、終末期への対応・支援体制が整えられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導による救急救命や心肺蘇生方法などの講習会に適宜参加しスキルアップを図るとともに、今後定期的に学習した技術を反復復命する機会を法人単位で計画していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回実施する計画の訓練が今年度は実施できていない。3月中の実施に向けて計画を進めることとする消防設備の定期点検は実施し器具等の不具合のないことを確認している。	今までの訓練から、改善点を確認し、その体制を整え実施する計画となっています。災害時等を想定し、備品・備蓄の点検等は定期的実施・確認の取り組みがなされています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮して接しているつもりではあるが職員同士の見守りが行き届かない面の克服ができずにいる。	トイレ介助など、他の利用者や職員にわからないよう対応し、声かけ・日頃の関わりなど尊厳を守るための配慮や支援がなされています。	研修計画にて職員全員で情報の共有を行い支援できる体制を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話をよく聞き、いま何をしてほしいのかを把握できるように努めて、本人の希望がかなえられるように対応しているが、職員による認識理解にまだまだ温度差は否めない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿った支援を行っているが定められたスケジュールが前提となり、可能な限りその方のペースを大切にしたいが入居者の希望に沿えていない部分が多い。自由な生活設計のための支援計画を図りたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝衣の区別をつけるようにし、衣類や着衣については自己決定を促している。髪など整容について自力でできない入居者に対しては職員が対応している。散髪や美容カットは希望に応じて訪問美容師に依頼し、ホームにおいて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見や希望、嗜好を聞いてメニューを決める時もある。特に中心となる職員の献立による手作りの食事グレードは高いと思う。食事の楽しい雰囲気づくりは必ずしも十分とは言えない。適時適温に努めていきたい。	日頃の会話で、利用者個々の好みや希望を聞き、献立やおやつ食等に反映されています。食材・食事準備・片づけまで利用者と共に取り組まれ、食事を楽しむ支援がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量や水分量をチェックしている。食べやすくカットしたり嫌いなものや禁忌食材がある場合は別のものに変更するなど、彩りに工夫しながら楽しく召し上がっていただけるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	共有スペースの洗面台において紺人の歯ブラシや口腔スポンジを使用し、個々人の歯の状況に合わせてケアを行っている。口腔ケア等口腔衛生研修会へは積極的に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や排泄量をチェック表に記録し日々の特徴をつかむと同時に、プライバシーに配慮しつつおむつ外しのためのトイレ誘導や排泄支援を行っている。トイレでの排泄は本人の喜びになると実感する場面が多い。	排泄チェック表は、職員全員が把握・共有できる体制となっており、利用者の状況に応じた計画・配慮に取り組まれ、自立できる支援体制への構築がなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックなどをし、水分量を増やしたり運動をしたり、また連携医に相談した上での内服による調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予め時間を設定して入浴を行っている。しかし時間変更要請など、本人の希望に柔軟に対応できているとは言えない。好みの時間に入浴ができればよいとの職員の意見に対応できる体制にしていきたい。	体調に配慮しながら、順番・時間等希望に沿った支援がなされ、入浴剤などを使用するなどその日の気分に合わせた対応に取り組まれ、入浴を楽しむ環境に配慮がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の中には睡眠の浅い方や昼夜逆転睡眠の方もいる。体調の変化もあるが十分な支援に結びつかない面もある。徐々に生活習慣が戻るように支援を行っていききたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専任看護師の指示の下、で服薬管理を行っている。ファイルを作成し処方箋等を確認し理解に努めている。体調の変化が見られる時は即座に看護師に連絡・相談し、指示を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今期、レクレーションインストラクター資格者を配置し、楽しめるレクレーション、カラオケなどを行うようにしている。入居者の得意な領域を組み込んだレクプログラムを設定し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望により散歩に出かけたり、時には家族に連絡を取り外出できるように支援を行っている。歳時記に合わせドライブ等外出の機会を設けている。	家族と連絡をとりながら、想いのある場所や日々の利用者の気分・希望に沿って外出支援の取り組みが行われ、桜見など季節を感じる事が出来るよう、体調に配慮した支援がなされています。	

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のレベルを把握したうえで金銭所持をさせていただいている。買い物代行も行っている。生協移動販売車の定期販売があり、買い物を楽しめる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望や要望を聞き、家族等に電話などができるよう支援している。継続的な家族とのやり取りの成果として外泊ができるようになった入居者も複数事例できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを工夫し、湿度や室温を調整し入居者が過ごしやすい環境になるよう工夫している。食堂やリビング等共有スペースの室温湿度管理には特段の注意を払っている。	共用空間では、季節を感じ楽しめるよう作品の展示や飾り付けなど工夫され、環境整備だけでなく、温度・湿度管理に配慮し、利用者・職員が協力しながら気持ちよく過ごせる環境作りに取り組まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスなどで気の合った入居者同士が談笑できるよう、また一人一人に合わせた時間を過ごせるように心掛けている。また季節ごとの設えに工夫を凝らせるよう努めている。現在、ひな人形を飾っており、桃の節句を計画している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いたり以前に使っていた使い慣れた生活品を使用するなどして、本人が過ごしやすい部屋づくりを心掛けている。	馴染みの物を持ち込むなど、利用者がそれぞれに生活しやすい部屋づくりや体調管理に気を配るなど、快適に過ごせることが出来るよう工夫がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を花の名前にしているが、名前の表記や分かりづらい部分は文字を大きくするなどの工夫をしていて、自分の部屋との認識づくりを誘導している。居室には家族の同意の上、個人名を掲示して迷わないよう心掛けている。		